



CANOVA

だより63 January 2019

文・写真_鈴木真由美 編集_星久美子・真野由紀 発行_光の子どもの会
Praia do Estevão s/n, Canoa Quebrada, Aracatí-CE-Brasil CEP:62800-000
連絡先: info@criancasdeluz.org

FELIZ ANO NOVO !

明けましておめでとうございます !



昨年は次女（小学5年生）の日本の夏休みが終わる時期に合わせ、日本へ帰国しました。10月にはブラジルの**大統領選挙**があり、その3か月前から様々な公の書類の作成が困難となり、私たちがおこなっているアラカチ市政府との事業も、残念ながら最後の書類に関しては市長のサインをもらうことができずに日本に戻らなければいけませんでした。2年前におこなわれた市長選挙の時もそうでしたが、今回の大統領選挙でも対立候補が**国を真っ二つ**にしている様子が手に取るようにわかりました。家族が別居をしたり、友達同士が絶縁したりと、自分の応援する候補者に対する思いが強すぎて、それによる影響が大きすぎることに改めて気づかされました。日本では考えられないことかもしれませんね。

2018年12月末をもって、14年間私たちと共に働いてきた**フラビアーニ**さんがサンパウロへ旅立つこととなりました。2003年。一人娘を連れて私たちの保育園に来た時、エヴァさんが声をかけ、翌年から私たちと共に働き始めた彼女。当時まだ18歳、中学中退という状況でした。その後、中学、高校を卒業し、皆様からのご支援を受け、**学資支援として彼女に奨学金を出しながら**、無事、大学の教育学部を卒業しました。シングルマザーとして子どもを育てるということは、決して簡単なものではなかったでしょう。それでも、エヴァさんがサンパウロへと戻ることが決まった時、カノアの中心的スタッフとして活動してくれたのが彼女でした。その後も彼女がいたからこそ、活動がスムーズに進んでいったのだろうと、強く感じます。彼女には感謝の気持ちと、これからの未来を応援する気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました！そして、2019年。ブルーナを始め、新しいスタッフと共に頑張っていきたいと思っています。引き続き応援のほど、よろしく願いいたします！

「光の子どもたちの会」を支える先生たち

今回は「光の子どもたちの会」の保育園を14年間支えてきたフラビアーニさんからの退職メッセージです！

翻訳: 鈴木真由美

2004年以来、シュタイナー教育と出会い、教師として働いてきました。たくさんのことを学び、失敗をし、成果を出すこともできました。様々な場所、国、人たちとも出会うことができたのは、人生においてとてもかけがえのないことです。これらすべてに感謝しています。

今、私はこうしたすべてのことを心に秘め、旅立ちます。

私の娘を含め、エステーヴァン村に住むたくさん子どもたちがこの保育園、学童教室を卒業していきました。それは、子どもたちだけではなく、すべての家族にとっても、とても大切な時間となったことでしょう。

私が貢献できたのはほんの僅かなことかもしれませんが、ほんの少しでも子どもたちが成長していくために役に立つことができたら、とても嬉しいです。

誰かの役に立つことのできる教師となるためのチャンスくれたエヴァさんに、心から感謝いたします。真由美さんをはじめ、「光の子どもたちの会」の皆様にも、私を信じ、投資してくれたことに感謝します。今日まで、たくさん泣きました。それは悲しさからではありません。やり遂げたという充実感からです。

昨年から2年間。自分の持っているものをすべて伝えていこうと、努力してきました。私の大好きなこの村の未来の子どもたちに少しでも貢献できていたら幸せです。

「光の子どもたちの会」の活動に参加しているすべての人たちに、この活動がいつまでも心に残り、私たちの村だけではなく、あなたの人生、あなたの家族、みんながその気持ちを大切にこれからの未来を進んでいってくれることを願っています。

成功を祈っています。

Boa sorte para todos...



エデュカーレ(保育者と親のための学び&交流誌)に 掲載されました！！

臨床育児研究会が発行している保育雑誌である、『エデュカーレ』。以前も私たちの活動を掲載していただいたことがあるのですが、今回はこの雑誌の編集長でもある、汐見稔幸先生(東京大学名誉教授、前白梅学園大学学長)と対談をおこないました。ざっくばらんに話していた内容を編集者の方がキレイにまとめてくれました。

「汐見稔幸・対談 保育+α(プラスアルファ)第58回 カノアに来てみたら、本当に必要なものが見えてくると思う 幼児期にきちんと遊んでいない子が、小学校高学年でドロップアウトし始めています」

興味のある方はぜひ、ご覧ください！！
http://ikuji-hoiku.net/educare/no_88.html

2018
11月号
no.88

【特集】
保育の質にこだわりたい。
だから、本音でとことん話し合ってみた！
**質の高い保育・
エデュカーレの定義**

- どこまでが無償？ 保育はどうなる？
いよいよ始まる
「幼児教育・保育の無償化」
- 立ち止まって考えたい！
「守っていますか？」「子どもの権利」
- 新人育成は保育をするのと同じ
「毎日来てくれるだけでOK」から
始まる「新任教育課程」
- 汐見稔幸・対談 保育+α(プラスアルファ)
幼児期にきちんと遊んでいない子が、
小学校高学年でドロップアウトし
始めています

● A5判
(148×210mm)
● 84ページ
● 年間購読料 3,500円
(no.85~90)

目次 PDF Download

子育て日記より

今回、日本に残っていた中学生の長女。実家の両親の家にいるという安心感もあり、勉強以外で私が心配することはほとんどありませんでした。それでもまだ13歳。中学2年生。心の中は不安でいっぱいだったのだと思います。小学校とは違い、勉強も難しくなり、定期テストも初めての経験。部活にも参加する中で、自分自身を見つめる時間もなかったのでしょうか。蕁麻疹になったときには、皮膚科の先生が「しばらく部活を休んだ方がいいと思いますよ。」と助言してくださり、静かな時間を過ごすことができました。彼女自身が決断したこと。それでも、まだこうしたことすべてを受け入れることはとても大変だったに違いありません。私が日本に帰国する直前。娘と3時間以上も話をしました。その中で彼女は、「私は、気持ち、心の問題で体調などが変化してしまいやすいんだよね。ってことは、それをうまく利用すれば、やりたくないときに病気になれるのかも！？これって、すごくない？」そう言った彼女の言葉を聞き、私は安心したのでした。彼女は一つ階段を上ったのだと。この先も問題はたくさん待ち受けているでしょう。それでも、彼女を信じ、見守ることが、親である私にできる唯一のことなんですよね。

東海大学の学生グループが カノアにやってきた！



2018年8月、「ブラジル・スタディツアー」に参加した学生たちは、カノアケブラーダを訪問しました。彼女たちのブラジルでの思い出を紹介します。

谷田杏佳

私にとってブラジルと言えば…心の温かさを感じるブラジル！「キスハグ」を毎日するブラジル！幸せになれるブラジル！私はブラジルで約2週間素晴らしい時間を過ごすことができました。それは素晴らしいブラジルの挨拶の文化に毎日触れ、心の温かさを実感できたからだと思います。会ってすぐ挨拶の「キスハグ」から始まり、お別れの時も「キスハグ」をしました。ブラジルの挨拶の文化の「キスハグ」は相手が私を受け入れてくれているように感じ、いつも幸せな気持ちになれました。人と出会うたびに「キスハグ」をして人の心の温かさを感じ、幸せな気持ちになれるブラジルが私は本当に大好きになりました！！



渡邊佳奈

ブラジルに初めて渡航して、子供たちが元気いっぱい人懐っこかったこと、音楽が街でも溢れてて陽気な雰囲気がかつても気に入りました。

ブラジル人と一緒にいるだけでパワーが出るくらい、ブラジルの力強さを感じました。

日本の裏側に行けたこと、ブラジル人の知り合いが増えたこと、仲間で行ったこと、全てが思い出で、とても貴重な経験でした。

ブラジルがもっと好きになりました！

山上華奈

ブラジルでのスタディーツアーは多くの新しい出会いと感動に溢れていて、一言では言い表せないくらい本当にとっても充実していました。

ブラジルに滞在していたのは、合わせて2週間ほどでした。はじめはサンパウロのモンチアズールにあるリンダウバさんというボランティアハウスを運営している方の家に泊まらせていただきました。ツアー時期のサンパウロは想像していたよりもとても寒く、家主のリンダウバさんが毛布を出してくださったことを覚えています。モンチアズールというファベラ（スラム）でのお手伝いにも参加し、地域の方とコミュニケーションをとれたことはとても嬉しかったです。子どもたちがポルトガル語を全く話せない私に積極的に話しかけてくれたおかげで、少しだけ話せるようになったと思います。

サンパウロの後にはフォルタレーザ州のカノアケブラーダに行きました。カノアは海に近い地域で、自然をよく感じられました。砂丘を登って夕陽を見に行ったり、海で遊んで浜辺で魚を買って家の庭で焼いたり。ジャンガーダという小さなヨットに乗せてもらい、沖まで連れて行ってもらったりもしました。1つの民家を貸し切って、自分たちで料理したり自由に海に出かけたりしました。2泊3日が本当に短く感じられるほど新しい環境に溢れていました。ブラジルに滞在していたのはわずか2週間ですが、また行きたいと強く思わせてくれる経験ができました。多くの出会いに感謝を伝えたいです。



和知郁美

私たちは約2週間のブラジル滞在のうちの、最後の3日間でカノアケブラーダを訪れました。カノアケブラーダといえば美しい海という印象でしたが、私が最初に驚いたことは言葉のなまりでした。その前はサンパウロで過ごしていたので、私の耳はそこに住む人たちのポルトガル語に慣れていました。どうにか理解していたポルトガル語も、カノアケブラーダでは全く理解することができませんでした。

文字を読むことができない人も多く、私たちは身体を使いコミュニケーションを楽しんでいました。表情は人と関わっていく上で、とても重要だと気づかされました。言葉を使って伝え合うことが難しい。そんな状況だからこそできた経験です。

美しい朝日、夕日、海、人、食べ物。カノアケブラーダには人が幸せになるためのものが揃っている場所だと思います。



国内活動＊Atividade no Japão

●ブラジル料理教室

@大田区ライフコミュニティ西馬込

2018年12月1日(土)

メニュー

ブラジル風ローストポーク

ボン・デ・ケーショ(もちもちチーズパン)

ポレンタ(とうもろこしを使った料理)

パヴェ(ブラジル風ティラミス)



今、日本にいる私は、いつもブラジル料理教室があると聞くと、「行きたい!」と思うのですが、部活があり、なかなか参加できないのが残念です。特に大好きなフェジョアードのときに参加できなかったときは、泣きそうなくらいに悲しかったです。

ブラジル料理といっても、地方によって味付けや材料が違うので、私が食べなれている味とは違うものもありましたが、それでも**ブラジルのおばあちゃんを思い出し、とても幸せでした。**特に中津さん(いつも参加してくれる常連さん)のデザートはとても美味しく、ブラジルで食べる以上でした!またぜひ、参加したいと思っています。

ブラジル料理教室はたくさんの方が参加してくれ、とても楽しい会となっています。ブラジルにはなかなか戻れないけど、こうしたイベントに参加することで、私の幼馴染みや近所の子も達が通う**保育園や学童教室の給食費などに少しでも役に立っている**ということを知り、とても嬉しかったです。もっとたくさんの方が参加して、ブラジル料理を食べてもらえるといいなと思っています。(中学2年生 鈴木美莉亜)



●よこはま国際フェスタ2018 @グランモール公園

2018年10月6日(土)

毎年参加している「よこはま国際フェスタ」に昨年も参加しました。鈴木真由美さんがブラジルよりエステーヴァン村のお母さんたちの手作り「ラビリント」や、毎年大好評のエステーヴァン村オリジナルの「ゆるキャラキーホルダー」などをたくさん持って帰ってきたので、品揃えがとても豊富でした。その他にも、ブースに立ち寄ったお客さんには、カナア・ケブラーダの絶景やエステーヴァン村の子どもたちを映したポストカードなどを手に取って見て頂けました。

国際フェスタに会として出展する目的は、会の活動について**広く多くの人に知ってもらうため**です。この日は天気も良く、出展ブースの場所も人通りが多かったので、たくさんの方々に立ち寄ってもらい、光の子どもたちの会の活動や、エステーヴァン村について知ってもらうことができました。物品の販売売上は10,200円でした。出展料等を差し引いた純利益は、会の運営資金として現地エステーヴァン村のために役立てる予定です。(川原翼)

ありがとうございます＊Obrigado

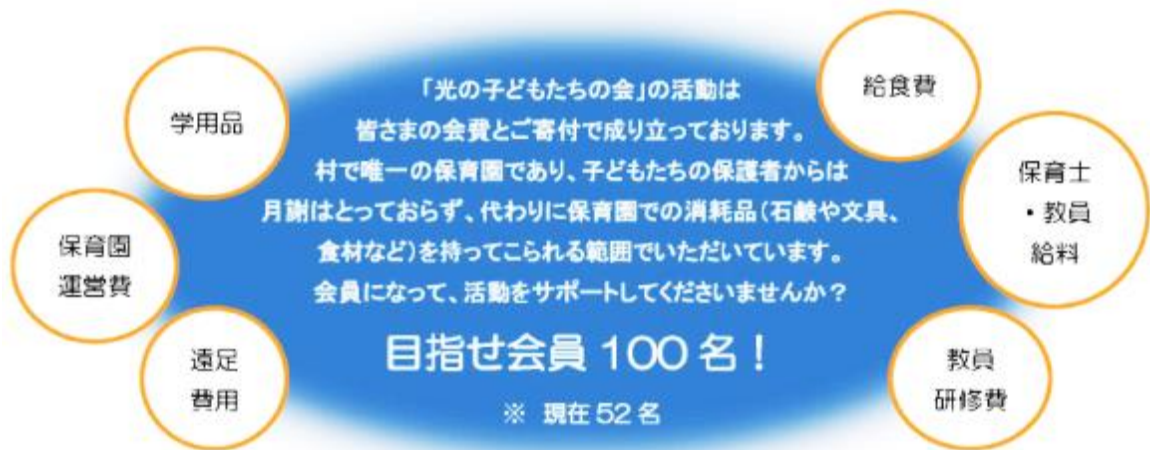
平成30年5月22日～平成30年12月24日現在までに会費及び寄付を頂きました皆さま及び物資支援を頂きました皆さまのお名前を下記に記載いたしました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

これからも一人でも多くの方に会員になって頂き、カノアの活動を共に支えていただけると嬉しいです。

目標会員100名！！

会費及び寄付を頂きました皆様（順不同）

安藤一樹さま、石田レイザさま、金本りせ子さま、桑山寛子さま、谷本祥子さま、藤本くみさま、松丸綾乃さま、三崎健司さま、吉川真弓さま、クリスマスチャリティーライブ（池尻範子さま）



年会費（五千円）・ご寄付のお振込み方法は4つ

1. 自動引き落としによる振込み

自動引き落とし希望の口座のある金融機関で手続きができます。引き落とし日、金額をご指定いただけます。尚、ゆうちょ銀行の場合は以下の〈2. 郵便振替〉と同じ口座番号ですが、他金融機関からの振込の場合には〈3. ゆうちょ銀行振込〉の口座番号となりますので、ご確認ください。

2. 郵便振替

口座番号: 00280-1-41787

加入者: 光の子どもたち-カノアの活動を支える会

3. ゆうちょ銀行振込

名義: 光の子どもたちの会 店名: Oニ八(ゼロニハチ)
店番号: 928 普通預金 口座番号: 5552598

4. インターネットよりクレジットカードで振り込み

光の子どもたちの会ホームページ

(http://criancasdeluz.org/inicial/index_jp.html)より、
お振込みいただけます。

お問い合わせ先: 代表 鈴木真由美、日本事務局長 堀池眞輔

〒221-0841 神奈川県横浜市神奈川区松本町 1-7-1 TEL/FAX 045-321-1824 info@criancasdeluz.org

フェイスブック「光の子どもたちの会」 ホームページ: <http://criancasdeluz.org>

カノア・ケブラーダ滞在記 川原翼

日本を經って丸2日。カノアに着きました！12年前に僕は初めてここを訪れました。その時からこの景色は変わらない。初めて来た時、「天国ってこういうところなんだろうな」と思ったところです。ここに来て、天使みたいな子どもたちに出会って、教育の大切さを知って、私は教育の世界に飛び込もうと決意した場所でもあります。**私の原点です**。教師になって10年が経ち、舞い戻ってきました。

今回、こうしてカノアに帰ってきたのは、真由美さんが光の子どもたちの会として行っているJICAのプロジェクトの監査・評価役の教育専門家として呼んで頂いたからです。「教師になって日本で経験を積んだらいつかまたここカノアに戻ってきたい！」**10年経って、その夢がようやく叶いました**。

到着2日目には、市内40数校の校長・教頭、及び市の教育長、JICAブラジル所長・次長の前で日本の学校紹介のプレゼンを行いました。日本の教育現場ではどのように学校が地域連携を行っているか、子どもたちがどのように自主的に活動する仕組み（委員会活動など）を取り入れているかということをお話しました。地域にある様々なリソース（自然環境や施設、地域のことをよく知るご老人など）を洗い出し、それを子どもたちの学びに繋げていくこと。教室の中だけではなく、時にはフィールドワークに出かけ、地域を通して学ぶことの大切さ。様々な機関と連携して、子どもたちを守り育てること。委員会のあり方。授業研究について。**私が教師として学び、ブラジルの先生たちに伝えたかったことを伝えることができました**。先生たちもすごく真剣に聞いてくれて、質問もたくさん出ました。

3日目は、市内の小学校の**ライフスキルの授業観察**を行いました。先生の授業のレベルが高くて驚きました。学校もとてもいい雰囲気。授業では、先生が子どもたちの意見をよく聞いていて、活動もたくさんあって、とてもいい授業でした。念願だった村の中にある光の子どもたちの会が運営する**学童教室の見学**も行うことができました。日本で私が教える小学校の子どもたちに描いてもらった絵を見せて、同じテーマで子どもたちに絵を描いてもらいました。絵のテーマは、「将来の夢／好きなもの」。同じテーマなのに、2つの国で描かれる絵は全く違っておもしろいです。そして、夜は**サッカー教室**へのサッカーグッズの寄付。ブラジルはサッカー大国。しかし、村にはサッカー用品が足りません。そこで、日本の子どもたちに呼びかけて、**中古のサッカー用品を集めて持って来ました**！たくさん集まって、私のスーツケースの中身はほとんどがサッカーグッズ。

サッカーボールも空気を抜いて7~8個入れたのですが、飛行機の中の気圧の変化で膨張して、スーツケースを破壊！（笑）持ってくるのにすごく苦労しました。でも、子どもたちにすごく喜んでもらえて満足でした！これで心置きなくサッカーをして欲しい！

4日目は、真由美さんの夫のマルシアーノさんが働く市内の小・中学校へ！マルシアーノさんは、学校の先生以外にも血気盛んな青少年にサッカーを教えています。彼らのサッカーの環境は、煉瓦やガラスの破片がたくさん落ちている砂の上で裸足、チームを分けるピブスがないから片方のチームは服を脱ぐ、ゴールはただのポールのみ、ボールも何度も縫い合わせたものを使う、といった感じです。ということで、そこでも日本からの**サッカーグッズの寄付をプレゼント**！はじめは少しビクビクしていたのですが、なんてことない！日本からのサッカーグッズに屈託のない笑顔で本当に嬉しそうに喜んでくれました！

その日の夜は村に戻ってマルシアーノさんの「**ダンサ・ジ・ココ**」の活動を見学。村に伝わる伝統的な漁師の踊りです。天国に思えるような村も、少し視点を変えれば、すぐ隣にある観光地はグローバリゼーションの波に飲み込まれて、若者たちは麻薬・売春と隣り合わせにいます。それを止めるための真由美さんの光の子どもたちの幼児教育活動であり、マルシアーノさんのスポーツを通じた**青少年活動**です。マルシアーノさんは初めて出会った12年前からその姿勢は変わらず、彼自身が生まれ育ったこの村の若者たちの先頭に立って、彼らを見守り、指導しています。天国みたいなこの村を守るため、いつも冗談を言いながらも変わらずみんなの前に立ち続けるマルシアーノさんはめっちゃうかっこいい！真由美さんがカノアに住み始めて19年。真由美さんとマルシアーノさんのもとの、**村の子どもたちは村を担う次の世代として着実に育っていて、今やその活動は村を飛び越え市全体を巻き込んでいます**。

久しぶりのカノア。今回、本当に来て良かったです！私はこのカノアの地で12年前、**小学校の先生になりたい**と思い、いつかまた力をつけて戻ってきたいと思っていました。今回、10年の教員生活があったからこそ見えたことがたくさんあって、今までやってきたことは決して間違っていなかったと思えました。ここには、また見たい景色があり、また会いたい人たちがいます。必ずまた来ます！

